



学校だより

10月号 校長 工藤 聡



味方は必ずいる

二学期が始まってひと月が過ぎました。友達との関係や、様々なことに悩む子どもにとって、夏休み明けの登校はプレッシャーが大きく、私も小学校時代には登校を渋ったことが思い出されます。

先日の読売新聞の記事で、「#しんどい君へ」と題した特集の中で、サッカー日本代表監督の森保一さん=写真=も、中学生のころ、サッカー部のチームメイトから避けられ、スパイクを投げ捨てられた経験がある。そして森保さんは、その続きを次のように述べています。

そして、そのころ、「練習に行きたくない」と思い詰めた。それでもやり過ごせたのは、気持ちを切り替える方法を見つけたから。「自分の周りの全員が敵になったわけじゃない。コミュニケーションを取る相手を変えてみて。自分を受け入れてくれる人や、認めてくれる味方は、必ずいます」

サッカー選手になっても落ち込んだことは何度もあります。高3の夏休みに入団テストに合格し、日本リーグの「マツダ」に所属したのですが、新人6人の中では最も評価が低く、本社ではなくグループ会社での採用になりました。試合の手当てが一人だけ安いのです。日本代表に選ばれた後に、チームのレギュラーを外された時も悔しかった。

うまくいかないときは、自分を否定しがちです。でも、自分を責めないでください。もう一人の自分が「まあ、それもお前だよな」と許し、認めてあげるのです。「できない自分」も積極的に肯定してください。

日本代表監督の今は選手起用や采配などについて、厳しい声や批判も届きます。監督は「結果商売」ですから。ただ、批判には自分では気が付かない「成功へのヒント」が隠れている可能性もあるのです。「いろんな価値観や意見があるんだな」と受け止め、次につなげるようにしています。 ※8/22（木）読売新聞朝刊より引用

今、四中には、確実に変化が訪れており、その変化の元には「わかばルーム」の存在があります。不登校傾向だった生徒たちがこの部屋に登校でき、時にはクラスの授業に出たりすることができています。これはすごいことで、素晴らしいことです。前述の森保監督の言葉の中の「許し、認めてあげる」こと。そして、生徒も、教師も、学校全体が、「できない自分」を肯定することができ始めていると実感しています。

四中はこれからも、生徒たち・保護者の皆様の「味方」でありたいと思います。この二学期に、生徒たちが真の成長を成しえることを願っています。

立会演説会 生徒会役員選挙

9月17日(火)、第46期生徒会役員選挙立会演説会が開催されました。本校では、3年生が選挙管理委員となり、会の企画から、選挙運動、そして投票と開票まで、実に完成された活動で、責任を持って取り組んでくれました。

そして、それにこたえて1・2年生の立候補者は素晴らしい演説で、3年生から1・2年生へ、四中の伝統である「自立と連帯」のバトンが受け継がれました。10/7には委員会委嘱式も行われます。新しい四中が確実にスタートをしています。ご期待ください。



部活動 秋の新人戦等の結果

○野球部 オール狛江合同チーム

第77回東京都中学校秋季野球大会第9ブロック大会 準優勝

準決勝 7 - 1 三鷹中等教育学校

決勝 4 - 5 三鷹第二中学校

☆オール狛江合同チームは、10月12日(土)から始まる東京都大会へ出場します。

○合唱部 第79回 東京都合唱コンクール (都合唱連盟、朝日新聞社主催)

中学校混声合唱の部 銅賞を受賞

○サッカー部 新チームは、狛江一中と合同チームを組み、9支部新人大会の予選リーグに参加中。予選は全部で1チーム当たり4試合を行います。

※ 学校だよりHP版には月予定を掲載していません。